

延岡には6月6日の夕方から9日の朝まで滞在することができました。今回の私たちの訪問を家族を迎えるように迎えて下さった友人と、優しいご夫君に感謝の気持ちでいっぱいです。彼女は「自分の家と思ってね」と言って下さってご自宅の2階を全部開放してくださいました。私は洗濯をし、横になってテレビを見て、お昼寝してしまいました。まさに自分の家にいるように。



宮崎県木 フェニックス

彼女は数奇な生涯を送ってこられました。戦争による空襲で戸籍がすべて焼けて、別れた家族を見つけるのに60年以上かかったのです。けれども、「やっと弟たちに出会えて、今ほど充実していて、幸せな時はない」と、現在は親しく行き来しているご兄弟との関係を喜び、元気いっぱいにお過ごしです。亡くなっておられた母上の写真が飾られていました。彼女にそっくりで、丸顔で可愛い女性でした。「私の人生は小説になるほどだ」と、孤独の時、苦渋の時、思うようにならない時、夢中で働いた時を思い返されては言われます。どんな時も、前向きに、精一杯生きて来られたから、今があるのです。また、養祖父母にとっても可愛がられたことは幸いだったと言われます。愛し、愛される関係が、人間らしい関係なのだ、実感します。彼女はまた、情熱家です。信仰の求道においても、納得いくまで突き進みます。もちろん「若い時チャ、恋愛以外に、なんかすることあると？」と、二十歳の時から熱愛のご主人と今もラブラブです。

7日の午後に、一人の方をデイ・サービスの場所にお訪ねしました。彼女の年齢は分かりません。おそらく80歳をかなり超えておられると思います。35年前と変わらないお顔で、車椅子に座っておられましたが、とてもお元気に迎えてくれました。彼女は旭化成の工員としてレーヨン、ベンベルグ工場など紡績工場で働きました。機械化され、事務関係のお仕事に変わられました。地方から出て来て、独身で働き、実家とも疎遠となりました。まったくの孤独の生活だったでしょう。若い日に主イエスを知り、神の祝福と守りを信じ、キリストの体である教会の中に彼女は居場所を見つけたのです。生真面目に謙遜に精一杯生きてこられました。教会での一人一人との交わりの記憶は脳裏に刻まれているようです。彼女は教会の大切な一員であり、礼拝にも欠かさず出席しておられます。



宮崎県鳥 コシジロヤマドリ



宮崎県花 ハマユウ

あの少年のご両親の仲の良さは知らない人がいないほどでした。「ホラ、〇〇子、ここは危ないよ」、「ホラ、〇〇子、足元に気をつけて」といつもエスコートするご夫君の口癖は、今でも耳に残っています。衆知の夫婦愛なのに、それでも、「うちの△△さん、カッコいいから、チト、用心しなきゃ」と焼きもちを焼くほど愛情も凄いものです。「この世のものとも思えない！」と男性の驚きを誘ったほどです。彼女は信仰も熱心でした。夫と共に教会に行きたい、二人で一つの心になって祈りたいという真剣な思いは、様々な作戦の結果、成功させました。お二人は息子と共に信仰を持つようになりました。毎晩、息子に電話し、安否を問うています。ご夫君が亡くなった今も、彼の写真や声をたくさんiPADに入れて、眺めて、聞いて、涙しては、手元から離しません。彼女はそろそろ80歳になるはずですが、今もメルヘンの中の少女のような風情です。

どこの教会でも、多くの女性が隠れて奉仕し、縁の下の力持ちとなって、支えています。使徒パウロが主イエスを「愛」とたとえて言われた言葉、「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」(I コリント 13:4-7)という言葉は多くの人々の愛唱聖句です。女性は「忍耐強い、情け深い」心根を持って、働いています。男性に、このみ言葉が自分にも語られていると知ってほしいと願っています。